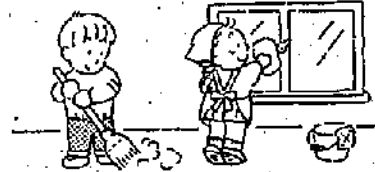


じゅう おきて
会津藩「什の掟」～ならぬことはならぬものです～

11月29日の学習参観は、たくさんの保護者の方々にご来校いただきました。どの学年の教室でも生き生き学ぶ子どもたちの姿を見ていただくことができました。学級懇談会にも、たくさんご参加いただきました。ありがとうございました。

さて、江戸時代に会津藩と呼ばれていた地域（今の福島県）がありました。会津藩では10歳になると、日新館という現在の学校のようなところに入って学問や武芸を学ぶことになっていました。まだ日新館に入れない6歳から9歳くらいの小さな子どもたちは、自分たちの町に子どもたちだけで「什」という集まりを作っていました。「什」では、一番年上の者が什長になり、午後の集団遊びの前にお話をする決まりになっていたそうです。そのお話の内容は、

- 一、年長者の言うことに背いてはなりません。
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません。
- 一、うそを言うことはなりません。
- 一、卑怯なふるまいをしてはなりません。
- 一、弱い者をいじめてはなりません。
- 一、戸外で物を食べてはなりません。



というような内容で、どの町の「什の掟」も必ず最後は、「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられていました。

「ならぬことはならぬものです」という言葉には、人として生きるためには、「理屈や言い訳が通らない、絶対にやってはいけないことがある」という意味が込められています。礼儀がないこと、うそをつくこと、弱い者いじめをすることなどは、人間として恥ずかしいことだと戒められていたのです。

ところで、福島小学校の子どもたちは物事を半断したり、行動したりするときどんな基準をもっているでしょうか。会津藩の子どもたちのように「うそをつかない」という基準をもっている人もいます。あるいは「自分がされていやなことを人にしない」という基準をもっている人もいます。基準はその人によってまちまちですが、大切なことは、自分の基準が周囲の人を楽しく幸せな気持ちにし、自分をも高めるような基準になっているかということです。

子どもたちはこれから多くの人と関わりながら生きていきます。いつも物事が自分の思うとおりに行くとは限りません。どんなときでも周りの人のことを考え、自分の基準を破りそうになったとき、我慢すべきときは、「ならぬことはならぬものです」と自分自身をしっかり押さえられる子に育てていきたいと思えます。そして友達と心を通わせながら、楽しく毎日を過ごしてほしいと願っています。

校長 中村祐佳子

12月の学校行事予定です。		
1 (木) 交通指導 4年人権教室 歯科健診 (4・5・6年)	5 (月) 引き落とし日 集金日 7 (水) 8 (木) 5年加太合宿 10 (土) 11 (日) 家庭科作品展 (和歌山城ホール)	12 (月) スクールカウンセラー来校 23 (金) 2学期終業式 11:10頃下校 12/29～1/3 は学校が閉まっています。 1/6 (金) 3学期始業式
2 (金) ALT来校日		

福島のきまりチェックシート！

いよいよ12月です。今年最後の月となります。一度今年の自分の行動をふりかえってみましょ

う！どれくらいきまりを守っていたかな？(〇)

	できた◎	少してきた○	できなかった△
	きまり		◎○△
1	「おはようございます。」「さようなら。」など 大きな声であいさつができた。		
2	毎日名ふだをきちんとつけた。		
3	始まり、終わりの時間を守り、がんばってそうじをした。		
4	ろうかを走らなかつた。		
5	通学路をしっかりと守って学校に来た、家に帰った。		
6	校区外に子どもたちだけで行かなかつた。		
7	テキバキ給食の用意をし、静かに食事ができた。		

全部に◎はつきましたか？

これからもふくしまのきまりをしっかりと守り、

みんなですてきな福島小学校をつくっていきましょう！

